

# 基礎からの 漢方薬

第4版

【医療用漢方製剤・構成生薬解説】

横浜薬科大学教授 <sup>キム ソン ジュン</sup> 金 成俊

漢方薬を取り扱う上で必要となる漢方医学と漢方薬の基礎知識、調剤、服薬指導、生薬・方剤などについて多数の図表や写真を用いてわかりやすく解説。



## POINT

- 漢方医学・中国医学の歴史や考え方の基本となる「陰陽説」「五行説」「気血水」などについても詳述
- 漢方薬の基本剤形である刻み生薬の知識が修得できる様に約 300 点のカラー写真を収載
- セルフメディケーション支援の推進に伴い重要度が増している、一般用漢方製剤の内容も充実

B5 判 / 340 頁 / 定価 5,000 円 + 税

基礎知識の修得や再確認などに向け、  
医師、薬剤師、薬学生におすすめの一冊です！

4-3 五行説

五行説とは、自然界における変化を五つの基本属性（木・火・土・金・水）の相互作用によって説明した理論であり、土を中心とした四方の方位から生み出された説である（図1-21）。土を中心として木火金水が配置されている。方位から考えると、中央を東西南北が囲む形になる。五行配当の色から黄の中央を守る四神として、東は青龍、南は朱雀、西は白虎、北は玄武（亀蛇）となる。さらに配合される生薬の色から麻黄の青から青竜湯、大棗の赤から朱雀湯（干薑湯）、石膏の白から白虎湯、附子の黒から玄武湯（真武湯）が漢方薬として用いられている。

また五行説は五角形の対等関係としても説明されており、自然界の変化は五行の循環によって営まれている。五行の働きは大きく二つに分かれており、平衡が保たれた状態を「相生（関係）」、平衡が破れた状態を「相剋（関係）」と呼ぶ（図1-22）。図では五行の性質から、火を土位としている。

相生関係

相生関係とは相手を発生させる働き、すなわち自分自身が変化して新しいものを生み出すことであり、木（肝）→火（心）、火（心）→土（脾）、土（脾）→金（肺）、金（肺）→水（腎）、水（腎）→木（肝）の順序で常に規則正しく変化するとされている。

- ①「木（燃えるもの）」からは「火」が生まれる。
  - ②「火（熱を持ったもの）」は燃え尽きた後「土」に変わる。
  - ③「土（栄養分を蓄えたもの）」は積み重なって「金」に変化する。
  - ④「金（堅いもの；鉱物）」からは「水」が湧き出す。
  - ⑤「水（流れるもの）」は「木」を発育させる。
- このような「五行の相生関係」によって自然界の調和は保たれている。

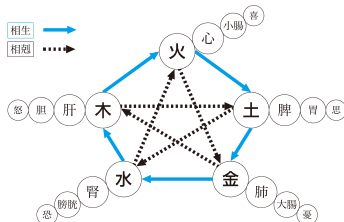


図1-22 五行の相生と相剋関係

もくじ

第1章 漢方医学の歴史と理論

1. 中国医学の歴史
2. 漢方医学の歴史
3. 三大古典
4. 漢方基礎理論
5. 漢方の診断

第2章 本草学と生薬学

1. 生薬（本草）
2. 方剤学
3. 漢方製剤

第3章 漢方薬の調剤と服薬指導

1. 調剤・服用方法
2. 漢方薬の服薬指導
3. 医療用漢方製剤ワンポイント服薬指導例
4. 服薬指導Q & A

■生薬の解説

■方剤の解説

・医療用漢方製剤刻み生薬ワンポイント鑑別法

漢方の基本となる知識を  
図表や写真を用いて  
わかりやすく解説

生薬、方剤の解説には各項目に  
刻み生薬のカラー写真を掲載

ア行

阿膠（あきょう） ASINI CORII COLLAS

基 原：ウマ科（Equidae）ロバ *Equus asinus* Linné の毛を去った皮、骨、ケン、又は鞭帯を水で加熱抽出し、脂肪を去り乾燥乾燥したもの。

品 質：淡黄色から茶褐色の平透明で、乾燥品は強い臭気はなく、温度の高い夏に軟化しないものが良い。

薬味薬性：甘・平（微温）

煎液味覚：煎じているときの臭いが生臭く、不快なまずい味。

主要薬理：補血、止血、排膿作用があり、凝結止血、血液を補う働きがある。

主要薬効：①煎じ薬の場合は阿膠以外の薬を煎じた後に、細かく砕いた阿膠を熱いうちに

少しずつ加え、良くかき混ぜて溶かしてから服用する。

②代用品としてゼラチンを使用する場合もある。

該当方剤：温経湯 芍薬甘草湯 炙甘草湯 猪苓湯 猪苓湯合四物湯



阿膠（山椒）

威霊仙（いれいせん） CLEMATIDIS RA

基 原：キンポウゲ科（Ranunculaceae）サキシマ *Clematis chinensis* Osbeck, *C. manshurica* K. Schumacher 又は *C. hexapetala* Pallas の根及び根茎

品 質：根が細く、外皮が黒く充実に充ちたもの

薬味薬性：辛・温

煎液味覚：薄味で苦みは強くないが、少し芳香がある味。

主要成分：トリテルペノイド anemonine, その他の

主要薬理：解熱作用

主要薬効：利尿、鎮痛作用があり、血行を促し浮腫

参 考：①名称の由来は性質が猛々しく（威）、

②希チタノールエキスを15.0%以上を含む

③ヒ素5 ppm以下

該当方剤：疎経活血湯 二朮湯

ア行

No.: 5 安中散（淡褐色）

剤形分量：圓クラシエ 1.2/6 ココロ 1.5/6 東洋 3/6  
圓オースク 1/3 JPS 0.8/7.5 ツムラ 1.5/7.5  
タイコク 1.1/7.5 本草 1/7.5  
説キョク 1/9  
圓コクロー 1.5/6

出 典：勿論薬家方書

名称由来：方剤名が薬効を表しており、お腹（中）を安らかにし消化機能を改善する意味により命名された。

方剤構成：桂皮3.0 延胡索3.0 牡蠣3.0 附子1.5 甘草1.0 良姜1.0  
合計13.5g 7品目

煎液味覚：少しヒリヒリ感があるが、シナモンの香りがして薄味の甘味があり飲みやすい。

原典薬効：「治遠年日近、胸脘脹痛、口吐酸水、寒邪之氣留滯於中停積不消、脹滿、攻刺腹脇、及婦人血氣刺痛」

急性慢性を問わず、胃部が疼くような痛みがあり、口から胃酸を吐き、寒邪が胃内に停滞したため消化ができず、お腹が張って刺すような痛みがある。女性の場合は血気が原因で起こる刺すような痛みも治癒する。

方剤解説：生薬と甘草を煎き全て芳香性健胃薬の働きがあり、漢方的には身体を温める作用が強い。一般的には冷えが原因で起こるような消化不良、腹痛に用いられるが、冷えると痛みを増す生理痛などにも応用される。また芳香性健胃薬の働きが強く、胃酸の過剰分泌による痛みを抑制するために制酸、鎮痛作用の働きがある牡蠣と甘草が配合されている。

服薬指導：①痛みの原因が冷えであるため、温服が望ましい。

②桂皮、延胡索、牡蠣、良姜などの影響によって服用後、ヒリヒリ感がある。

③神経性胃炎、慢性胃炎、胃アトニー、胃下垂症、胃・十二指腸潰瘍など。

参 考：依書を加味することが多い。

副作用：①重大な副作用として偽アルドステロン症・ミオパシー。

②過敏症として発疹・発赤・痒疹など。

併用注意：甘草含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤。

No.: 115 胃苓湯（淡褐色）

剤形分量：圓ツムラ 4.25/7.5

出 典：古今医案（巻五 瀉瀉）

名称由来：平胃散と五苓散を合わせた内容によるため、平胃散

の「胃」と五苓散の「苓」から命名された。



安中散



胃苓湯

薬能や副作用、併用注意・禁忌、慎重投与など  
実務を行う上で重要な事項を整理しており、  
調剤や服薬指導に役立つ

【申込書】

年 月 日

ISBN: 978-4-8408-1490-4

基礎からの漢方薬 第4版

医療用漢方製剤・  
構成生薬解説

定価 5,000 円 + 税

申込冊数

冊

ご送付先住所

〒

貴施設・貴社名

部署名

ご担当者名

お電話番号

書店様番線印（書店申込）

- 書店へのご注文は冊数をご記入の上、お近くの書店にお申込み下さい。
  - 弊社に直接ご注文の場合には必要事項をご記入の上、FAXにてお申込み下さい。
- 別途送料（国内1箇所送付につき550円、重量が5kgを超えた場合は850円）を頂戴します。

薬事日報社行きFAX  
⇒ 03-3866-8408